「九谷焼」を活かした個人滞在型温泉観光地へ

37 山代温泉（やましろおんせん）

（石川県加賀市）

注目 ポイント ！

○ 団体遊興型温泉地から個人消費型温泉地へ。
○ 九谷焼等の伝統文化を活かした山代ブランドによる温泉観光地づくり。

外国人宿泊客数が約1,000人から約5,300人に！
（平成13年） （平成17年）

九谷焼窯跡展示館

◇◇ コラム ◇◇

団体遊興型温泉地から個人消費型温泉地への転換を図るため、旅館施設の一部開放や空き店舗対策に着手。また、「はづちを楽堂」、「九谷広場」の建設等温泉地内の早期再生に努めた。 空き店舗対策として萬谷氏自らが運営する「べんがらや」は、地域活性化事業の模範となっている。

観光カリスマ 萬谷 正幸氏
（よろづや観光（株）代表取締役社長）

これまでの経緯

昭和６３年（１９８８）	景観整備等の温泉地活性化事業を開始する。（～平成16年度）
平成 ７年（１９９５）	山代芸能曼陀羅を開始する。
平成 ８年（１９９６）	山代大田楽を開始する。
平成１２年（２０００）	加賀市内周遊バス「キャン・バス」の運行が開始される。
	道番屋サービスを開始する。
平成１４年（２００２）	はづちを楽堂が完成する。
	九谷焼窯跡展示館が完成する。
	九谷広場が完成する。
平成１６年（２００４）	山代温泉グランドデザインを作成する。
平成１７年（２００５）	山代九谷だまの実証実験を実施する。
平成１８年（２００６）	九谷焼ミニギャラリーを整備する。
	山代大田楽を外国人観光客にも対応できるよう発展させる。

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）の大賞として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

道番屋

山代温泉地内の商店25店舗では、軒下に木製のサインを掲げ、道案内をはじめ、山代の様々な情報を提供する「道番屋」サービスを展開。観光客に対して、九谷焼をテーマとした散策モデルコースを案内する等のサービス充実により、個人観光客の町中周遊を支援。

道番屋のサイン

山代大田楽

芸能曼陀羅

平成8年、地元の青年達が中心となって、農民芸能として流行した田楽等の伝統芸能「山代大田楽」を復活。温泉地内で四季折々のイベント「芸能曼陀羅」が行われる中、加賀商工会議所は、山代大田楽の開催にあたり外国語観劇プログラムの配布や通訳ガイドの配置を行い、外国人観光客にも日本の伝統文化を発信。

九谷焼ミニギャラリー

加賀商工会議所は、温泉地内の商店や旅館の協力を得て、各施設の店頭やロビー等に、九谷焼のミニギャラリーを設置。スタンプラリーの実施等、観光客がそぞろ歩きしながら、身近に九谷焼の鑑賞ができる環境を整備し、観光客の町中周遊を促進。

九谷焼ミニギャラリー

山代九谷だま

山代温泉地内の協力商店等では、観光客が何らかの消費活動を行った際に、手持ちの「白だま」と各施設オリジナルの「絵柄だま」（山代九谷だま＝九谷焼製箸置き）を交換できるサービスを実施し、個人型観光客の町中周遊を促進。

山代九谷だま

問い合わせ先

○加賀市観光商工課
Tel：0761－72－7900　http://www.city.kaga.ishikawa.jp/
○山代温泉観光協会
Tel：0761－77－1144　http://www.yamashiro-spa.or.jp/